第３回しまね産業活性化戦略会議記者質疑

日　時　　平成１９年１１月６日（火）
　　１６：０６～１６：３４
場　所　　ＳＢＰ内　ＭＣＳ会議室

○山根部長　それでは、報道の皆さん、何か御質問等がございましたら。
○溝口知事　適宜、どうぞ。

○記者　よろしいでしょうか。ＮＨＫですけど、お世話になります。
　今日、中間の取りまとめ、当初の目標としていたとおり、１１月中間取りまとめ案が出ましたけれども、会議の中でどこまで話し合われたのかなというのは思うんですが、これはもう取りまとめられたということでいいんでしょうか。
○溝口知事　いや、今日の意見もありますからね。そういうものも少しつけ加えたり修正をしたりして、いつごろになりますか。
○山根部長　もうできるだけ早くやろうと思っております。

○溝口知事　それから、このＡ３版縦紙の「戦略とりまとめ」に主要なコンポーネンツが紹介されていますけども、これは整理ですよね。考え方というか、どういう方向で進むかということが書いてあるわけですけども。
　他方で、もう実際にこういうものに基づいて活動は始まっておるということですね。
　観光についてそうですし、ＩＴのソフトウエアのビジネスについてはやっておりますし、製造業などは、もう既存の枠組みの中で、さっきもありましたが、進出企業の業容の拡大だとか、あるいは新たに進出企業が出てくるとか、各地で動いておりますから、それを引き続きやっていくということでありますし、それから観光も現実にもう観光客がふえておりますから、むしろそういう対応をどうしていくか、あるいは圏域、山陰、山陽を含めた一つのエリアとして観光が行われるような方策、あるいは島根の中でも東西を通ずるような観光の動き、そういうものを具体的に促進していくというようなことが既に我々、できる範囲でやっておりますけども、そういう実践的な問題が並行して動いているということだと我々は考えておりますけども。
　それから、農林水産業の話はここでも議論していますけども、島根総合発展計画の一部として農林水産業の審議会でも議論をしております。販路の拡大、新商品の開発、これも実践的な動きとしていろんなことがあるわけでして、今週末は紀ノ国屋と島根県との間で協力の協定を結ぶということがありますし、紀ノ国屋の社長から県内の生産者に対しまして、都市の消費者が求めていること、どういうことが島根の生産者にとって必要かといったような話を聞く機会も今回設けておるわけでございまして、そういう機会を通じて島根の産品がさらに改善をしていくという契機になるということを期待をしているわけであります。

○記者　済みません、取りまとめというのは、基本的にこの形というのは変わらないというふうに考えてよろしいですか。
○山根部長　骨格そのものはそんなに変わらない。
○記者　基本的にはもうこういう形でまとまるということですね。
○山根部長　そうです。
○記者　それを県民の方に公表されるということ。
○山根部長　そうです。少し文言化をして、短い文章ですから、その方がわかりやすいもんですから。

○**記者**　それはホームページに掲載するとか、いうことは。
○**山根部長**　できればそういう形で。
○**溝口知事**　もちろんそうでしょうね。
○**記者**　それはいつ頃されるんですか。
○**山根部長**　作業が入ってきますので、遅くとも今月中には出したいと思いますし、今月、ちょっと時間がまだありますので、できるだけ早く公表できるようにしたいと思っています。

○**記者**　改めてなんですけれども、この３分野を重点分野に置いて、今後の知事の産業活性化に向けた意気込みというのを、ちょっと簡単にお願いしたいんですけれど。
○**溝口知事**　３分野といいますか、これで大体県内の主要な分野はカバーするわけでありますけども、それぞれの特色がありますから、特色に合わせた支援を適切に行っていくということですね。
　ものづくりで見れば、やはり新しい技術開発、新しい商品開発をすることが大事でありまして、その部分につきましては、産業技術センターでいろんなことをやってますから、実用化を進めるとか、既にできたものを県内企業に移転をしていくといいますか、そういうこと、それから県内企業の競争力強化のためにいろいろ既に行っていますけども行うということ、企業誘致は先ほど申し上げたようなことであります。
　新しい要素としてはソフトウエアのビジネスを、ちょうどここがソフトビジネスパークということで造成をされて、少しずつ進出企業も増えておるわけですね。ちょうどＭＳＣという会社の新社屋で、この会議が開かれるということは大変有意義なことでありますし、我々はいろんな方法を通じてソフトウエアビジネスの立地として島根、特にこの松江の地が非常にいいということをよく関係の企業の方々にわかっていただき、私としては、この前の東京のセミナーで多くの企業の方々が来られて関心を持つところがありますから、そういう方々に実際にこの地に来て、このビジネスパークを見たり、あるいは生活の主要な分野ですね、教育でありますとか医療でありますとか、あるいは余暇の利用の仕方とか、この松江の地を見ていただくということをやり、それによって立地が進むようなことを具体的にやっていきたいというふうに思います。
　それから、地域資源を生かした産業の振興につきましては、観光、県産品の開発、中小企業の振興等が載っておりますけども、ここに書いてあるようなことを市町村とも一緒になりましてやっていきたいというふうに思ってます。
　私としては、さっきコメントのところでちょっと申し上げましたけれども、現実には相互の、島根の潜在力というのがほかに劣ってるわけじゃなくて、そういうものがいろんな形で実現を既にしつつありますから、それを支援によってさらに進めるといったことをやっていくということになろうかと思います。

○**記者**　済みません、新産業創出プロジェクトの今後の見きわめの時期とか、ＩＴ産業の関連の企業誘致のところで、ここはかなり具体的なことが出てきてると思いますが、これについては基本的にこの方向で行くということでよろしいんでしょうか。
○**溝口知事**　そうですね。
○**山根部長**　そうです。
○**記者**　時期的にはいつごろ、多分このＩＴ企業の分なんかだと、多分やろうと思えばすぐにでもできるのかなとは思うんですが。
○**溝口知事**　ＩＴ企業の進出なんかは、要するに個別にどういうところが出てくるかということによるわけですね。既にそういう希望を表明しているところもあるわけですね。それで私は、ＩＴの方は大企業、大きい企業も進出してくれることはもちろんいいことであります

けども、小さい企業といいますか、若い人がベンチャービジネスのような形でここのインキュベーションセンターといいましたかね、そういうオフィスを活用したりして少人数でベンチャービジネスを立ち上げていく、そういう人がこの松江の地に住んで子育てをしながら新しいものを開発していく、そういう人々が多く集まって、そういう人々が集まるような場が、例えばソフトビジネスパークのどこかに、レストランみたいなものにできたりして、インフォーマルな人々の情報の交換が行われて、それが相互に刺激し合うと、それが世界の各地で起こってるいろいろなシリコンバレーだとかフロリダだとかの地域の特色の一つですね。若い人たちが情報をインフォーマルに交換し合うと。

今でもそれに近いようなことは、Ｒｕｂｙの関係だけじゃありませんけども、情報産業協会で月１回ぐらい、そういうインフォーマルな会合、意見交換するような場もできておるようでありまして、むしろそういうとこでほかの人がどういう考えで、どういうアイデアを持ってやってるかなんていうのを何となく探ったり、お互いにそこからヒントを得たり、そういう知的な情報の交換ですね、そういうものができるような場ができるということが大事なことじゃないかと思いますね。そうすると、あそこに行くとそういう本など、あるいはＩＴ、ホームページなど、そういうかちっとした形でない情報があると、そんなようなことが集積の魅力の一つでありまして、そういうことができるようになるとおもしろいんじゃないかなという気がしますね。

この前の東京のＩＴのセミナーなんかも、２００人近い人が出てきてるんですけども、それはやはりまつもとさんなんかがどういう話をするかなんていうことを聞こうと思って出てきてる人がいるわけですね。したがって、まつもとさんだとか、あるいはそれと似たようなレベルの高い人と接触ができると、話ができるといったようなことが一つの、ここで仕事をするアドバンテージになる可能性があるんじゃないかと私は思っておりますけども。

○記者　山陰中央新報です。

先ほども意見が出てましたけど、地域経済というのは今、建設業を中心にして非常に疲弊しておって、新しい産業の柱になる業種というのが必要になってくる、育成が必要になってくる。片方で県財政は厳しくて、何でもかんでも手厚くはあんまりできないという状況でもあると思うんですけども、この３つの柱になる分野というのが上げられてますが、知事の中で新しい柱になり得る分野というのは、優先順位をつけるとしたら、どういうふうに位置づけられておられるのか。

それからもう一つは、ＩＴ産業というのが新しい柱として入っておるんですけども、先ほど来、その理由についてはおっしゃっておられるんですけども、ＩＴ産業自体が新しい地域経済の柱になり得るのかどうか。先ほどの委員会からの数字でも、３年間で５０億円ぐらいですか、５００人、数字をどう評価するかというのは意見が分かれるかもしれませんけれども、ちょっと先ほども宮脇さん言っておられましたが、額的に、あるいは人数的にややちょっと物足りない感じも私は個人的にするんですけど、なぜ今ＩＴなのかというのをちょっとお尋ねしてみたいんですけど。

○溝口知事　順番としていえば、やはりものづくりというのはやはり大きな集積がありますし、県内も実績がありますし、それからＩＴじゃなくてものづくりということになると、やっぱり質のいい働き手が確保できるかということは今、企業にとって非常に大事な要素になっておるんですね。それで、大都市ではなかなか中小企業、中堅企業等は採用しにくいという事態が起こってきてるわけです、大企業の方が先にいい人をとっちゃいますからね。しかし、高い技術を持ってる中小企業などは、やはり若い新しい人が恒常的に入ってくるようなことが必要なんで、そのためにはそういう人がいるところに出ていきたいという動きがあって、島根からこの地に雇用がないために出ていく人が新卒なんかも非常に多いわけでして、

この地でそういう製造業が来れば残る人も出てきますから、そういう意味では、やはりものづくりの分野というのは引き続き重要な分野ですね。

それから、島根のアドバンテージということでいえば地域資源でしょうね。観光であり、あるいは農林水産品で、特に品質のいいもの、それは都市の消費者が多く求める時代になりましたから、大事なところであります。

それから、ＩＴのところは、一つはやはりＲｕｂｙといった新しいプログラミング言語を開発した人がこの松江におられるというのがこの地のアドバンテージでありまして、実際の金額として、すぐに売り上げが県の全体の大きな部分を占めるということには、すぐにはならないと思いますけども、しかし、そういう先端的なものがこの地にあるということが、この島根のイメージを高め、この地にそういう高度な技術を持った者が出てくる誘因になるというふうに私は思ってまして、これは少し時間をかけながらやっていくと。ある段階を過ぎると非常に加速するような可能性もあるんじゃないかと、集積が進みますと、集積のあるところへどんどん人が集まるようになりますから、そういう臨界点まで早く行けるかどうかということが重要な要素ですね。

○記者　とすると、先ほど出てましたけど、プログラム言語の寿命というのはそんなに長くは多分なくて、新しいものがまた次々出てくるとは思うんですよね。そうすると、短い期間のうちに結果を出すような戦略というのも、また考えていかなきゃいけない。

○溝口知事　そういう人が集まれば、またさらに進んだ言語なり技術がその地から生まれますからね、そういう人の集積というのが大事なわけですね。

今、集積を起こす誘因としてＲｕｂｙという新しい言語があって、まだまだ十分利用されてないというか、始まったばかりですから、それを早く進めようと。だから、大事なことはＲｕｂｙといった言語が使いこなせる人を、高度な難しいプログラムが開発できるような人を早く育てると、そのために島根大学とか高専とか、一緒になってそれを育てる、あるいはセミナーをやったりして、そういうところにすぐれた人を呼んで、そういう人たちに次ぐ人を育てていくと、それをやっていきたいということですね。

○記者　わかりました。

ＩＴも物によっては一種のものづくりかもしれないんですけど、企業誘致のところで、今後の展開で産業クラスターをつくるために業種を決めて誘致を図ると。この業種というのは現段階で、例えば自動車関係とか機械金属とか、いろいろあるかもしれませんが、知事御自身、どういうお考えを持っておられるのか、その理由はなぜかというのをちょっとお尋ねしてみたいんですけど。

○溝口知事　進出する企業があれば、そこは本当は業種を問う必要はないわけでありますけども、すそ野が広い産業とか企業とか、それはこの地でまた新しい受注を県内企業にするというようなことがありますから、そういう波及効果の大きい企業が来ればもっといいということですけども、そういうものも一生懸命やるということですね。

○記者　では、片方で雇用対策の会議もつくられましたけれども、どういう人材を育てることができて、どういう人材なら確保することができて、一種のそれも地域資源なんだろうと思うんですけど、それもある意味島根型の企業誘致というんでしょうか、をやっていくのか、あるいは今の好調な業種をターゲットにしてやっていくのかと、これは軸足が全然違うんだろうと思うんですけど、その辺は特にないですか。

○溝口知事　製造業の安来からこちらに、西に向かう地域では、金属工業というよりも、もう精密機械に近いような産業の集積があって、そういうところはやはり最終的には手作業といいますか、そういう熟練度の高い人が必要なんで、そういうところは高専だとか、あるいは工業高校、そういうところの人たちはそういう可能性、そういうものに熟練度の高い技術

者になっていく可能性を有してますから、それが一つの目指す方向じゃないでしょうかね。
　あるいは情報産業なども、島根大学にも情報関係の学科がありますし、高専はまたものづくりの方では伝統がありますし、それからロボットを使うような技術も高いですから、技術の高い、高い技術を持っている技術者といいますか、そういうものを供給していくということじゃないでしょうか。

○記者　山陰中央新報社と申します。
　先ほど知事、順番としてはものづくりを１番に柱として入れておられるということなんですけども。
○溝口知事　それは感想といった程度でありまして、そうこれが１番、これが２番ということではありませんけどもね、どちらかといえば、どういうあれとして問われれば、その程度のあれであって、みんな一生懸命やるということですね。
○記者　ええ。その中でものづくりを、すべて一生懸命やられるということなんですけども、まず私の個人的な感想でちょっといかんとは思うんですが、具体的にどういうことをするかというのが、ＩＴの場合は新しいことでもあるかもしれないんですけども、企業誘致の誘致制度の新しいことを創設されたりというのは具体的にあるんですけれども、このものづくりのところに関しては、当たり前というか、新産業創出プロジェクトの推進ですとか、何かあんまり見えないという感じというか、何がしたくてどうなって、どこまで重点的にやるのかというところが、今度、県民にこの素案を示されるということなんですけど。
○溝口知事　ここはそういうやり方が書いてあるだけですから、現実には企業がどういう意思決定をして、どういうものをやっていくかに我々が合わせて、そういう進出をしたい企業、あるいは力を、競争力を拡大したい、改善したい企業を状況状況に応じて支援をしていくということに尽きますけどもね。
　これは人材を確保するようにやっていくとか、それも短期的じゃなくて、大学教育、あるいは高等学校の教育を通じてやるということもあるでしょうし、決まったやり方はなくて、実際に応じた適切な支援なりをしていくということですね。そのためには、やはりいろんな情報がうまく我々の間で流れていくといいますか、企業の希望のようなものをさらに誘導していくとか、そういうことが大事なんだと思いますけどね。
○記者　だから、それは今までもやってこられたのかなと。今後、具体的にこの数年間で取り組まなきゃいけないということが並ぶのかなと思っていたんですけども。
○溝口知事　例えば産業人材の育成とかをこういうふうに、何といいますか、県として明示的にやっていくというのも一つの新しい展開じゃないかと思いますけどもね。それはどうですかね。
○山根部長　ちょっと具体的に申し上げますと、形はそんなに変わらないんだろうと思いますね。ただ、新産業創出プロジェクトのところでは、これは知事の方から議会の方でも答弁いただいているんですけども、２～３年のうちに見極めをしますと、こう明確に出てます。
　それから今日、議論の中で島大の学長の方から酸化亜鉛の話が出てきました。これは大学主体で産学官連携でやりますよ、という意思表示だろうと思ってますが、そういう形でのプロジェクトの広がりというんですか、それがあると。それと競争力強化のところですよね。今まで経営力とか技術力を中心にしてやってきました。それは変わりませんけども、一番王道の企業支援ですからそれは変わらないんだけど、もう一つそこの上に生産力といいますか、そこら辺の改善運動とか、そこら辺もつけ加えてやりますよというのが大きな方向としては出てくる。具体のこれからの施策をどうやってつくっていくかというところになってきますけどね。

○**記者**　済みません、ソフト産業の優遇制度の拡充ですとか、あるいはこちらに賃貸オフィスをつくるとかいうことがアイデアとして出てるんですが、このあたりは予算に伴う措置なわけで、来年度をめどに実施するという理解でよろしいんでしょうか。
○**溝口知事**　そうですね。来年度予算の中でやりますし、既に一部は６月の補正予算なんかでもやってますね、Ｒｕｂｙとか組み込みソフトの研修をやるというようなことはやってるわけですね。来年もやっていくということ。
○**記者**　それと確認ですけども、このＩＴ産業育成のイメージということで、先ほども出ましたけど、目標で２０１０年に１，６００人、１５０億円規模という、このあたりは知事もイメージとしては共有していらっしゃるということでよろしいんでしょうか。要するにこのぐらいを目標に知事も考えていらっしゃると。
○**溝口知事**　いやいや、そこのところは矢野さんのＩＴの専門家のグループの一つの目安といったようなもんでしょうね。
○**記者**　ただ、新しくこうやって力を入れてやられるからには、一つの費用対効果と言ったら悪いんですけれども、努力目標というのはやっぱりあってしかるべきだろうと思うんですよ。それを知事はどのように、お考えか、お尋ねいたします。
○**溝口知事**　今のところですか。
　ＩＴそのものについて、今のような専門家がそういう見方であるというんなら、それは一つの見方でしょうが、今のそういうところまで目標として出せるかどうかというのは、ちょっとよく話もしなきゃいけませんけども、とりあえずはきょうのところは矢野さんのところの部会の報告を受けたということでありますね。専門家の方がおっしゃることですから、それは一つの見方として有力なんだとも思いますけどもね。
○**記者**　しかるべきときにはそういった目標を設けられますか。
○**山根部長**　そこらはちょっと私の方から答えさせていただきますけども、きょうは戦略会議ですから、基本的な方向の話です。そこではまだ具体的な数値目標は出てきませんけども、当然のことながら、これを具体化をする我々の役割として、数値目標なりわかりやすい成果目標というか、それは立てて施策を実行していくというのは当然のことながら必要になってくるというふうに思っております。
○**記者**　それはものづくり産業だったり地域資源の関係だったり、同じですね。
○**山根部長**　みんな同じ。
○**溝口知事**　どうですか。
○**山根部長**　よろしいでしょうか。
　ありがとうございました。
○**溝口知事**　どうもありがとうございました。